

氏名	中 村 泰 造
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 1 3 号
学位授与の日付	昭和43年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	サポニンの細網内皮に及ぼす影響に関する研究補遺
論文審査委員	教授 尾曾越文亮 教授 大内 弘 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

サポニンは溶血毒であると同時に網内系細胞を選択的におかす細胞毒でもある。著者は本論文の第1篇において、サポニンの網内系細胞に及ぼす毒作用を利用して、家兎の骨髓類洞を破壊し、その修復過程を追究した。その結果、骨髓類洞の再構築は、造血細胞の再生巣に由来する細網細胞によって行なわれ、サポニン注射後活潑に増殖する肝星細胞や脾の大食細胞とは、直接に関係がないことが明らかにされた。第2篇においては、墨粒子、含糖酸化鉄およびトリパン青の如き膠質粒子によってあらかじめ網内系を填塞すると、上に述べたサポニンの毒作用の発現が阻止されることが観察された。これはサポニンの作用機序を説明するためだけでなく、網内系細胞の未知の機能を示唆する興味深い事実で、膠質粒子と同じく膠質の性格をもつサポニンの分子とが網内系細胞の膜表面における吸着と胞体内における貪食(膠質粒子の摂取)の二面において互に競合することを物語る。

論文審査の結果の要旨

本研究は、サポニンの網内系細胞に対する選択的毒作用を利用して網内系細胞の形態と機能を追究し、膠質粒子による網内系填塞がサポニンの毒作用発現を阻止することを見出したもので、この方面の研究に新しい知見を加えた価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。